

今金町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

今金町は人口の約2割が75歳以上の高齢者であり、その割合は更に増加することが予想されるため、現在の自家用車中心の地域交通のままでは今後日常生活において不便が生じる世帯が増加することが懸念される。

このため、町内の交通不便地域の解消を図ることを目的として、地域間幹線系統(函館バス瀬棚線)に接続する地域内フィーダー系統のデマンドバスを運行し、地域の生活交通ネットワークの構築を進めるところである。

生活交通確保維持改善計画の目標

平成29年度より利用実績が減少傾向であることから、平成28年度と同等以上の利用実績を目標とする。

予約バス「ルンるん号」全体の利用者数 3,600 人

令和3年度事業概要

予約バス「ルンるん号」【八束・白石地区】【金原・豊田地区】【日進地区(補助対象外)】【田代・稲穂地区】

- ・運行形態: デマンド型フィーダー路線
- ・運行事業者: 有限会社東ハイヤー
- ・運行日: 平日、土曜日(日曜日・祝日は運休)
- ・運賃: 1回(片道)200円

地域公共交通の現況

- ・函館バス株式会社(町内1路線)
～国鉄廃止に伴う代替幹線バス路線
- ・スクールバス
- ・患者輸送バス

協議会開催状況

- ・令和3年4月1日 今金町公共交通活性化協議会(法定協議会)の発足
- ・令和3年4月19日 今金町公共交通活性化協議会(法定協議会)委員委嘱
- ・令和3年5月28日 令和3年度第1回協議会を開催(書面開催) 本計画の承認、年間事業計画の承認
- ・令和3年8月18日 令和3年度第2回協議会を開催(書面開催) 役員を選出、収支予算案の承認、各種調査の結果報告等
- ・令和3年12月9日 令和3年度第3回協議会を開催 事業評価の承認、各種調査の結果及び分析報告等

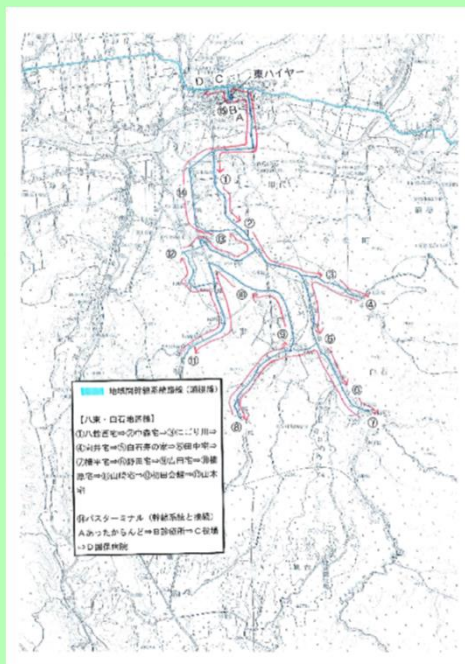
令和3年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

- ・フィーダー路線のエリア選択は、平成25年度実施の今金町地域交通サービス導入調査及び地理的事情に勘案し決定。
- ・前年度に実証調査運行を行い、最終的なダイヤを決定。
- ・地域住民説明会の開催、町広報紙による周知、運行地区全世帯への時刻表の配布、患者輸送バスに同乗し制度切り替えの説明等により、住民周知を行った。
- ・平成30年4月より、複数名又は団体による一括予約やファックスでの予約を可能とし、より利用しやすい受付体制を整えた。
- ・令和元年7月より、これまで下車のみであった市街地エリアでも乗車を可能とし、継続して運行を実施した。

2) 運行系統

八東・白石地区



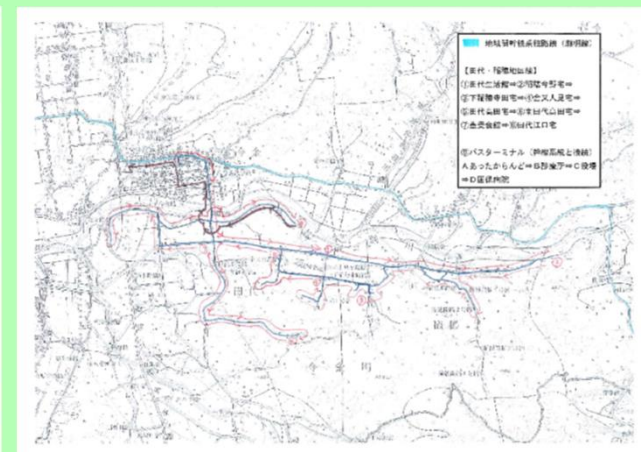
金原・豊田地区



日進地区

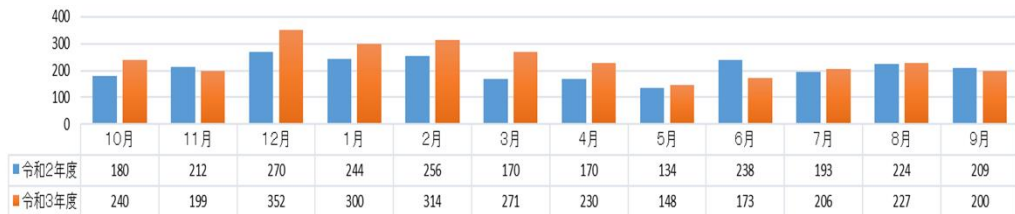


田代・稲穂地区



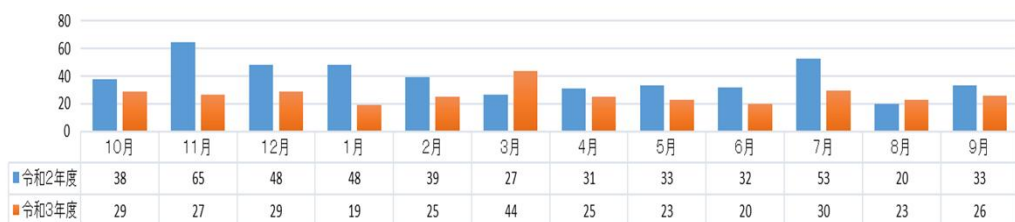
3) 利用実績

八束・白石地区



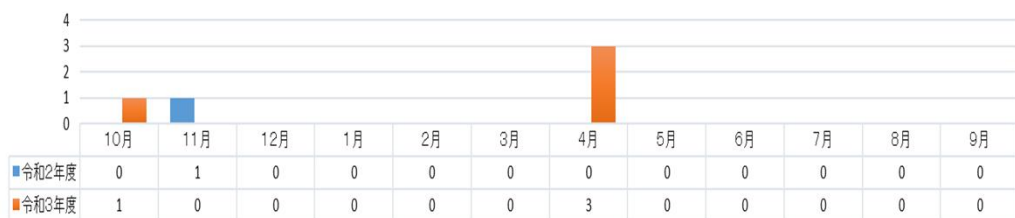
合計 ■ 令和2年度 2,500人 ※ 帰り最終便(補助対象外)利用者8人を含む ■ 令和3年度 2,860人 ※ 帰り最終便(補助対象外)利用者3人を含む

金原・豊田地区



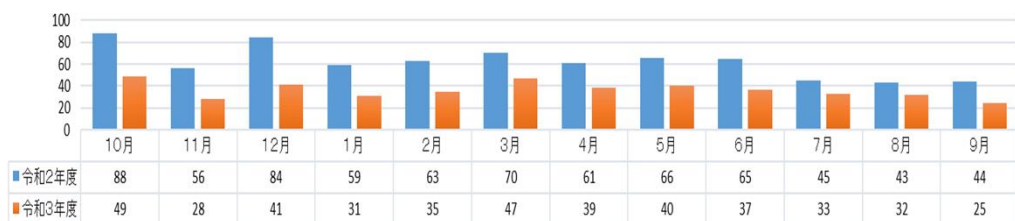
合計 ■ 令和2年度 467人 ■ 令和3年度 320人

日進地区(補助対象外)



合計 ■ 令和2年度 1人 ■ 令和3年度 4人

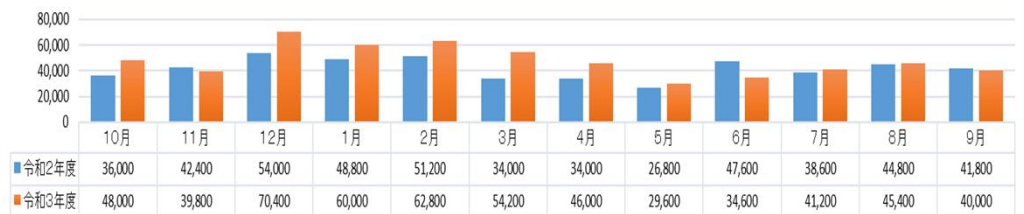
田代・稲穂地区



合計 ■ 令和2年度 744人 ■ 令和3年度 437人

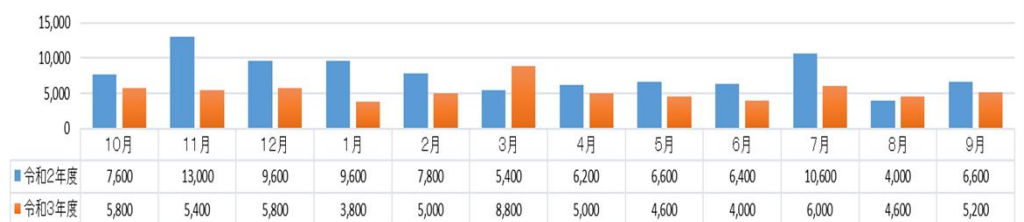
4) 収入実績

八束・白石地区



合計 ■ 令和2年度 500,000円 ※ 帰り最終便(補助対象外)料金1,600円を含む ■ 令和3年度 572,000円 ※ 帰り最終便(補助対象外)料金600円を含む

金原・豊田地区



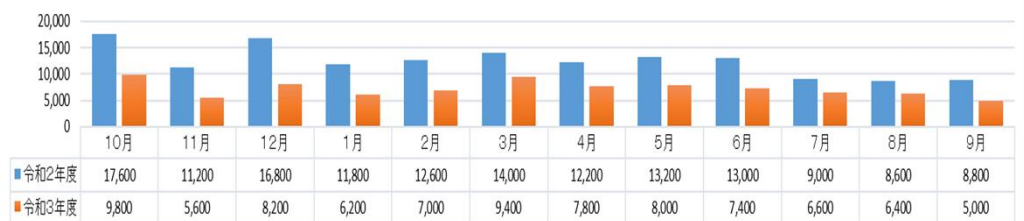
合計 ■ 令和2年度 93,400円 ■ 令和3年度 64,000円

日進地区(補助対象外)



合計 ■ 令和2年度 200円 ■ 令和3年度 800円

田代・稲穂地区



合計 ■ 令和2年度 148,800円 ■ 令和3年度 87,400円

5) 事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施された。

6) 目標・効果達成状況

各路線で新型コロナウイルスの影響による利用減が見られるものの、昨年から実施している乗車可能エリアの拡大により全体の利用者数は増加し、目標を達成した。

目標: 3,600人/年

実績: 3,640人/年(101%)

7) 事業の今後の改善点

- ・利用者への聞き取り等によりニーズを適切に把握し、ダイヤや設定の見直しなどを検討する。
- ・広報紙面やチラシの配布等継続した情報発信を行い、利用促進を図る

8) 地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果(案)

運輸局記載欄

(※2年毎の評価となるため、次の評価は令和4年度終了後)

今金町地域公共交通活性化協議会

令和3年3月30日設置



概要

今金町は日本を代表する清流である後志利別川と緑豊かな平野と丘陵が広がり、総面積は568.25km²で、人口は4,971人（令和3年10月末現在）であり、昭和55年時点と比較し、約半数にまで減少している一方で、高齢化は進行を続け、令和2年時点で41%と町民の約2人に1人は高齢者という状況である。

本町内を運行する公共交通は、函館バス（株）により2路線3系統が運行しており、また本町独自の取組としてデマンド運行型のルンるん号をまちなかと郊外部4方面に運行をさせている。

一方、これら公共交通について、人口減少や少子高齢化の進行など社会情勢が変化する中で、地域公共交通への町民ニーズが変化しており、これら変化に対応するとともに、昨今の交通事業者の運転手不足等の諸問題への対応も含めた公共交通網の見直し方針を示すことが求められている。

○地域公共交通の現況

- ・函館バス（瀬棚線（721系統、743系統）、快速瀬棚号（710系統））
- ・今金町（まちなかルンるん号、ルンるん号（八束・白石方面、金原・豊田方面、日進方面、田代・稲穂方面）（スクールバス、患者輸送バス）
- ・東ハイヤー
- ・その他（通学定期券運賃補助事業、福祉有償運送実施事業）

○地域公共交通の課題

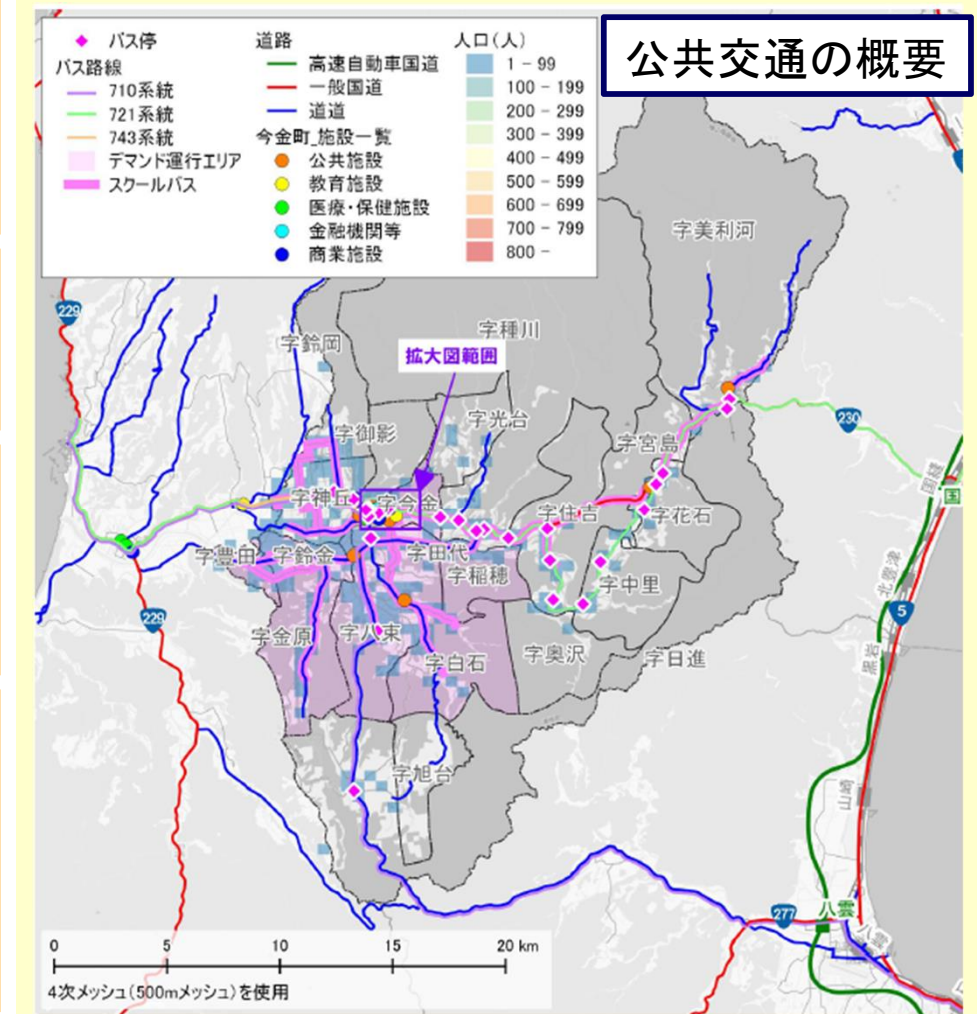
- ・全体最適を見越した路線バス運行内容の見直し
- ・町民が利用しやすい・利用したい町内交通への再構築
- ・幹線交通の維持確保方策の検討

○調査の主な内容

- ・現況交通実態調査（地域特性の整理、予約バス（ルンるん号）の運行実績データ分析
- ・町民ニーズ把握調査の実施・分析 ・バス利用実態調査の実施・分析
- ・町民意見交換会の実施・整理 ・地域公共交通計画素案の内容検討

○地域公共交通活性化協議会開催状況

- ・令和3年5月28日 第1回協議会を開催（書面会議）
（地域内フィーダー系統確保維持計画について）
- ・令和3年8月2日 第2回協議会を開催（書面会議）
（役員の選出、協議会収支予算、計画策定スケジュール、各種調査概要）
- ・令和3年12月9日 第3回協議会を開催
（各種調査結果把握及び分析、今後のスケジュール詳細、維持改善事業評価）



今金町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

1. 現況交通実態調査

- ・国勢調査やRESAS等のデータを活用し、人口の分布状況のほか、都市間の移動状況を整理し、地域公共交通計画における計画区域等の検討を実施
- ・公安委員会保有の運転免許証の返納データを活用し、運転免許証非保有者の分布状況を整理し、移動の足が必要となる地区の浮き彫りを実施
- ・バス停等の位置情報データを活用し、公共交通空白地域の特定
- ・ルンるん号の利用実績データを活用し、運行方面別の利用状況を整理し、運行方面の統合などによる車運転手・車両等のリソースの有効活用を示唆

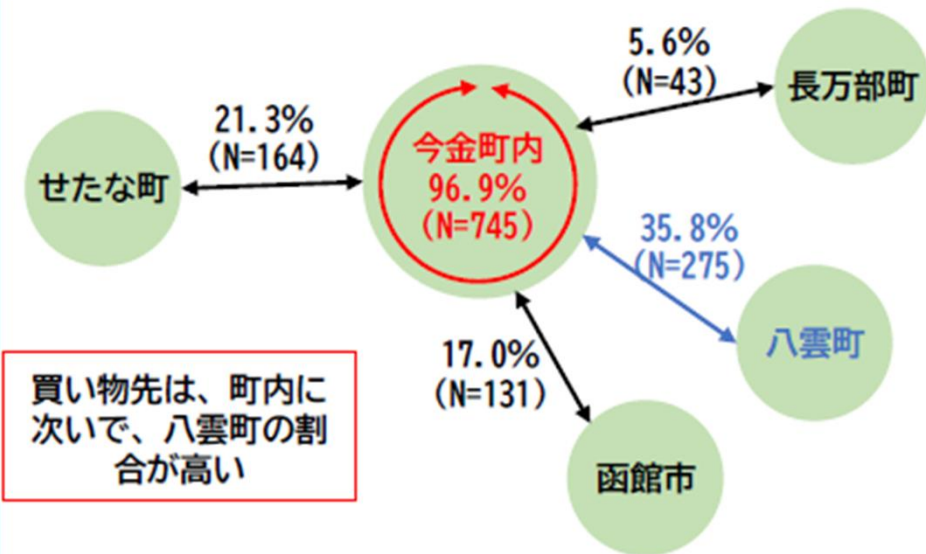
2. 町民ニーズ把握調査

- ・通勤・通学圏（町内+せたな町）、買い物圏（町内+八雲町）、通院圏（町内+八雲町+函館市）、私用圏（町内+八雲町）を整理
- ・町内交通（函館バス路線及びルンるん号）の改善点及び移動で困っていることを把握

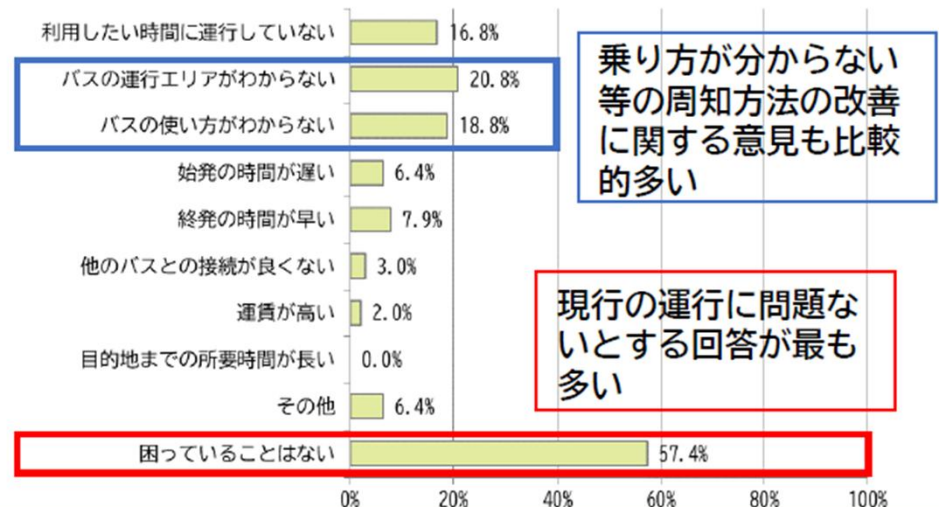
地区名	非保有者割合	地区名	非保有者割合
今金	14.6%	光台	22.7%
御影	22.8%	種川	24.5%
神丘	15.1%	住吉、宮島、奥沢	26.5%
豊田	20.5%	花石	28.9%
鈴金	20.4%	中里	26.7%
八束	18.4%	稲穂	20.5%
田代	19.2%	白石	12.4%
金原	15.7%	日進	22.2%
鈴岡	13.9%	旭台	0.0%
美利河	22.0%		

赤字：町全体の平均（16.4%）以上

問9③ 買い物の行先 (N=769)



問13 ルンるん号の不便な点 (N=202)

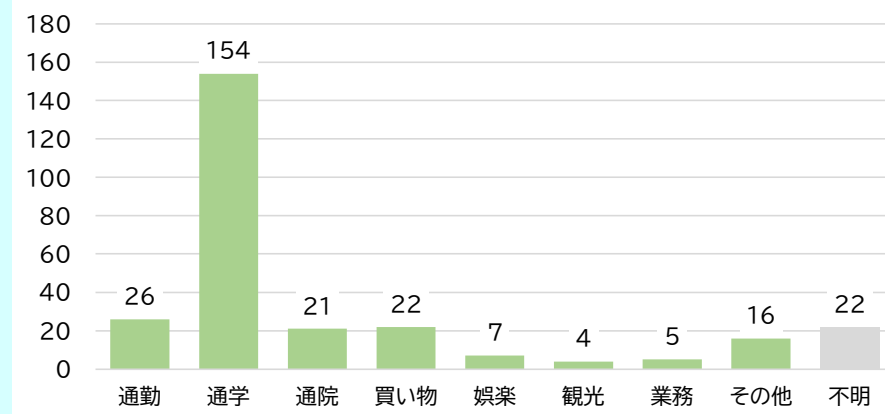


今金町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

3. バス利用実態調査

- ・町内を運行する全函館バス路線の利用実態調査を実施し、1日あたり243名が利用（うち約6割は通学利用）
- ・車内でビンゴ式アンケート票を活用した、利用実態調査を実施
- ・バス利用実態調査結果から、各バス路線の改善の方向性を整理



バス路線名	バス利用実態調査結果	方向性
瀬棚線 (721系統)	<ul style="list-style-type: none"> ・調査日の利用者数は187人（うち高校生126名） ・自治体間の中間バス停は、利用者0人のバス停も存在 ・自治体ODを整理したところ、「せたな町内」での利用が最も多く、次いで、「今金町⇄せたな町」の利用が多い ・町内の利用者としては、「市街地地区」及び「西部地区」からの利用者が主であり、「東部地区」からの利用は比較的少ない ・とりわけ、道道936号沿いの自由乗降区間からの利用者は、4人/日と少ない状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・所要時間短縮及び運行経費の効率化に向けた、道道936号運行区間の廃止 ※廃止検討区間に対する利用実態を考慮した新たな交通モードの運行
瀬棚線 (743系統)	<ul style="list-style-type: none"> ・調査日の利用者数は40人（うち高校生40名） ・「桧山北高校前」、「今金」での乗降が多い ・自治体ODを整理したところ、「今金市街地⇄せたな町」が最も多く、北桧山高校への通学利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・今金町の高校生の通学路線として、現行のサービス水準を維持
快速せたな号 (710系統)	<ul style="list-style-type: none"> ・調査日の利用者数は16人 ・自治体間の中間バス停は、利用者0人のバス停も存在 ・自治体ODを整理したところ、「せたな町⇄函館市」が最も多い ・今金町内からの利用において、「市街地地区」からの利用はあるものの、「南部地区」からの利用は見られない 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者0人バス停に停車しないなど、路線の快速化を検討 ・八雲町での短絡化など、路線の合理化を検討

4. 町民意見交換会

- ・現況交通実態調査及び町民ニーズ把握調査、バス利用実態調査結果を活用し、さらに詳細な町民の移動実態及び公共交通へのニーズを把握予定

今金町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

町内交通全般

- ・町民のさらなる公共交通利用を誘発する利用促進策の展開
- ※ルンるん号及び函館バス路線の利用方法などの認知度を改善する取り組みとして、体験乗車会やバス乗り方説明会などの実施を検討
- ※今金バスターミナルや各種施設等を連携した、バス運行情報の見える化（デジタルサイネージの設置含め）の実施を検討
- ※町内交通と地域間幹線系統の接続性を確保するとともに、乗継利便性向上に向けた、共通定期券の企画・販売などを検討

瀬棚線 (721系統)

- ・速達性の向上に資する取り組みの実施
- ※自由乗降区間（道道936号）の運行廃止

瀬棚線 (743系統)

- ・通学利便性確保に向けた運行継続
- ※現行サービス水準の維持

ルンるん号 未運行地域

- ・冬場も含めた町民の安心・安全な生活交通の確保に資する、ルンるん号の運行エリアの拡大
- ※現行の運行経費を基準に現ルンるん号の利用実態を加味したサービス水準を検討

ルンるん号 運行地域

- ・ルンるん号の利用実態に即した運行計画の見直し
- ※現行の運行経費を基準にルンるん号未運行地域への拡大も考慮した運行計画の見直しを検討

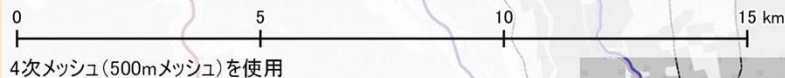
瀬棚線 (721系統)

- ・自由乗降区間廃止に伴うタクシー料金の低廉化措置の導入
- ※運行区間（種川止まりor市街地まで運行）については、全国的な事例を加味して検討

快速瀬棚号 (710系統)

- ・速達性の向上に資する取り組みの実施及び路線の合理化の実施
- ※今金町内バス停（末広十字街～日進間）の廃止
- ※八雲駅前を起点にせたな町～八雲町間、八雲町～函館市間で路線の切り分けを検討

バス路線		高齢化率	
—	710系統	■	10%未満
—	721系統	■	10%～20%未満
—	743系統	■	20%～30%未満
—	高速自動車国道	■	30%～40%未満
—	一般国道	■	40%～50%未満
—	主要地方道（都道府県道）	■	50%～60%未満
—	主要地方道（指定市市道）	■	60%以上
—	一般都道府県道	■	秘匿（他のメッシュに合算）
—	市町村道（認定道路）	■	
—	その他道路	■	



今金町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

地域公共交通計画の将来像

ふれあい今金「まちづくり」を実現する 安心して生活できる公共交通網の構築
～人のおでかけや生活を支え、未来を拓く交通網の構築～

基本目標1 持続可能な“ドア・トゥ・ドア”で快適な生活移動を確保

ルンるん号運行地域を対象に、現状のルンるん号の利用状況を考慮しつつ、より町民の生活移動の実態に即した運行エリア及び運行時間帯、便数などの運行計画の見直しを実施

基本目標2 生活移動の幅を広げる“公共交通”で安全な生活移動を確保

ルンるん号未運行地域を対象に、現在運行している函館バス路線に加え、より公共交通を利用しやすい環境づくりに向け、現ルンるん号の利用実態を踏まえた、運行エリアの拡大を実施

基本目標3 地域内資源である“ハイヤーの活用”で利便性の高い生活移動を確保

函館バス路線で自由乗降区間を実施している道道936号沿線地域を対象に、生活移動の継続的な確保を目的に、ハイヤー料金の低廉化措置を実施

基本目標4 生活圏を考慮した“地域間幹線系統の見直し”で将来にわたって広域圏の生活移動を確保

町民や今金町への公共交通を活用した移動を継続的に確保していくことを目的に、町内を運行する地域間幹線系統のサービス改善及び合理化を函館バスに対して提案

基本目標5 公共交通をより身近に感じられる“利用促進策の展開”で公共交通も便利と感じる意識を醸成

公共交通モードの見直し・導入と同時並行で、交通モードを“知って”“使ってもらう”機会の創出として、各種利用促進策を展開

●事業実施の適切性

新型コロナウイルス感染症の影響により、各種調査の実施が後ろ倒しになっているものの、予定している事業内容は年度内に完了予定

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

- ・事業は、計画どおり実施されている。
- ・今後、公共交通事業の収支率や公的資金投入額などの事業効率の改善等についても検証していくことをご検討いただきたい。

事 務 連 絡
令和 4 年 3 月 2 2 日

地域公共交通確保維持改善事業
実施協議会担当者 様

国土交通省北海道運輸局
交通政策部交通企画課

地域公共交通確保維持改善事業に係る事業評価（自己評価）
に対する二次評価結果について（通知）

平素より北海道運輸局の交通行政の推進に関しましてご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

貴協議会等が実施した地域公共交通確保維持改善事業に基づく補助対象事業については、先般、自己評価結果をご報告いただいたところですが、当局では貴協議会等の自己評価に対する二次評価を実施するため、令和 4 年 2 月 2 8 日に第三者評価委員会を開催いたしました。

つきましては、第三者評価委員会における意見等を踏まえ、別添のとおり貴協議会等に対する二次評価を実施しましたので、通知いたします。

今後の地域の取組を実施するに当たっては、別添の地域公共交通確保維持改善事業・事業評価表に記載した当局からの「地方運輸局等における二次評価結果」及び評価委員会の意見等を十分に勘案の上、適切にご対応いただくようお願いいたします。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

令和4年2月28日

北海道運輸局

協議会名: 今金町地域公共交通活性化協議会

①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局における 二次評価結果	備考
	②事業 実施の 適切性	③計画策定に向けた方針	評価結果	
<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現況交通実態調査 ・町民ニーズ把握調査の実施・分析 ・バス利用実態調査の実施・分析 ・町民意見交換会の実施・整理 ・地域公共交通計画素案の内容検討 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存データから移動の足が必要な地区を把握 ・ルンるん号の利用実績データから運行効率化及び他地区への拡大可能性を把握 ・町民ニーズ把握調査から町民の生活圏を把握するとともに、町内交通の改善点及び移動で困っていることを把握 ・バス利用実態調査から、町内を運行している函館バス路線の改善の方向性を整理 ・今後、町民意見交換会により、さらに詳細な町民ニーズを把握し、より具体的な施策内容の検討を実施予定 	A	<p>・今年度中に地域公共交通計画の方向性及び施策内容等を整理予定</p> <p>・来年度により具体的な施策内容及び目標値等の設定を行い、地域公共交通計画として取りまとめを予定</p> <p>対象区域: 今金町全域 計画期間: 令和5年度～令和9年度 計画の将来像: ふれあい今金「まちづくり」を実現する安心して生活できる公共交通網の構築 ～人のおでかけや生活を支え、未来を拓く交通網の構築～</p> <p>基本目標1 持続可能な”ドア・トゥ・ドア”で快適な生活移動を確保 基本目標2 生活移動の幅を広げる”公共交通”で安全な生活移動を確保 基本目標3 地域内資源である”ハイヤーの活用”で利便性の高い生活移動を確保 基本目標4 生活圏を考慮した”地域間幹線系統の見直し”で将来にわたって広域圏の生活移動を確保 基本目標5 公共交通をより身近に感じられる”利用促進策の展開”で公共交通も便利と感じる意識を醸成</p>	<p>・事業は、計画どおり実施されている。</p> <p>・今後、公共交通事業の収支率や公的資金投入額などの事業効率の改善等についても検証していくことをご検討いただきたい。</p>	

<令和4年度予算編成資料> 自家用車の公務使用に係る基準距離・車賃積算表

R2. 4. 1適用

用務地		概算距離 (片道・km)	基準距離① (片道・km)	車賃金額① (片道・円)	基準距離② (往復・km)	車賃金額② (往復・円)	備考	
檜山管内	せたな町	瀬棚	18.1	18	666	36	1,332	公用車利用を原則とします。
		北檜山	12.1	12	444	24	888	
		大成	37.2	37	1,369	74	2,738	
	乙部町		78.8	78	2,886	157	5,809	
	厚沢部町		91.8	91	3,367	183	6,771	
	江差町		91.9	91	3,367	183	6,771	
	上ノ国町		99.6	99	3,663	199	7,363	
渡島管内	八雲町	熊石	53.6	53	1,961	107	3,959	今金八雲間 道道距離
		八雲	42.3	42	1,554	84	3,108	
	長万部町		41.9	41	1,517	83	3,071	
	森町		75.8	75	2,775	151	5,587	
	北斗市	大野	102.6	102	3,774	205	7,585	
		上磯	112.5	112	4,144	225	8,325	
	七飯町		103.3	103	3,811	206	7,622	
	函館市		118.0	118	4,366	236	8,732	
	木古内町		139.6	139	5,143	279	10,323	
後志管内	黒松内町		62.5	62	2,294	125	4,625	
	島牧村		62.1	62	2,294	124	4,588	
	倶知安町		119.7	119	4,403	239	8,843	
	小樽市		169.8	169	6,253	339	12,543	
胆振管内	伊達市		98.7	98	3,626	197	7,289	
	室蘭市		130.6	130	4,810	261	9,657	
	苫小牧市		182.3	182	6,734	364	13,468	
石狩管内	千歳市		183.8	183	6,771	367	13,579	
	札幌市		184.1	184	6,808	368	13,616	
上川管内	旭川市		314.1	314	11,618	628	23,236	

注1. 上記距離の基準は、「北の道ナビ」ホームページを基準に作成している。(国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所)

URL : <http://northern-rord.jp/navi/>

注2. 上記表に記載の無い用務地へ出張の際について、「注1」の「北の道ナビ」で積算した距離に準じること。

注3. 積算にあたっては、一般道の最短距離を基準に小数点以下を切り捨てし、基準距離とすること。車賃金額は37円/kmで積算のこと。

注4. 不明な点は、総務財政課財政管財Gまで